

2025 年 5 月 1 日  
株式会社ソラコム

## 「SORACOM Flux」が、数学関数に対応

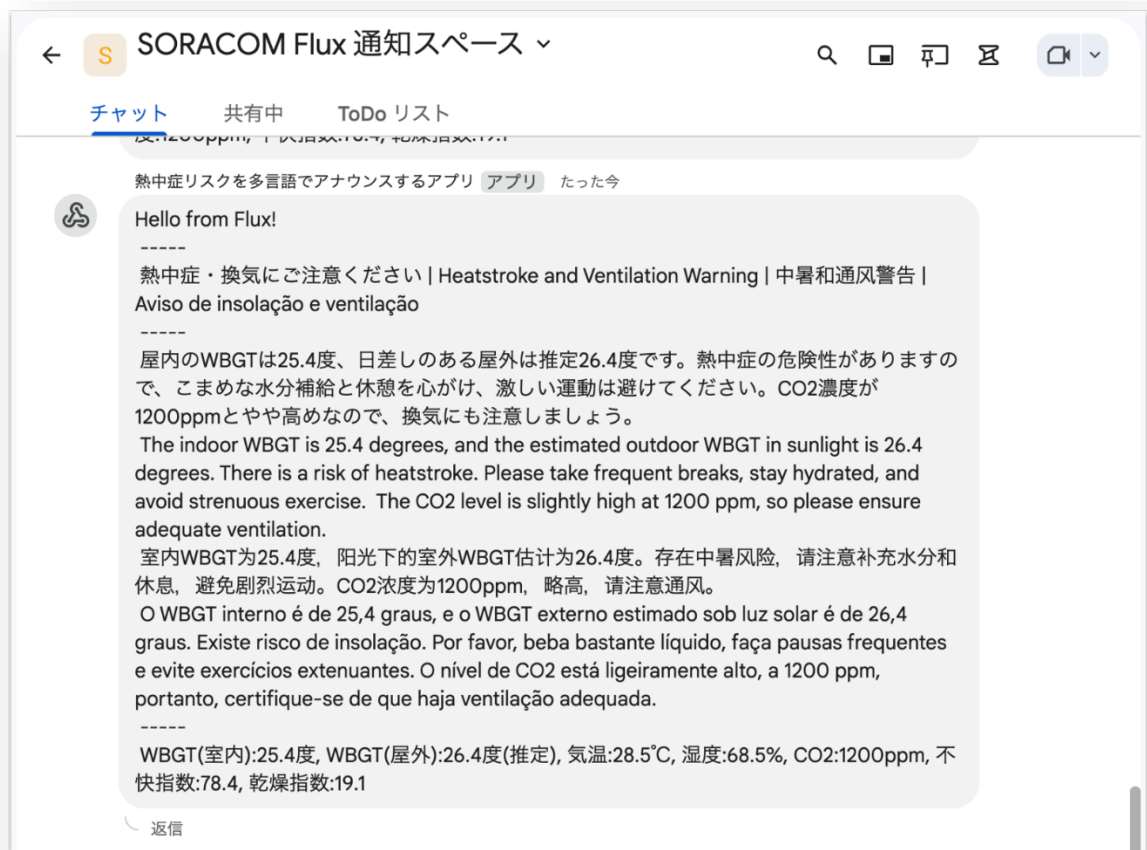
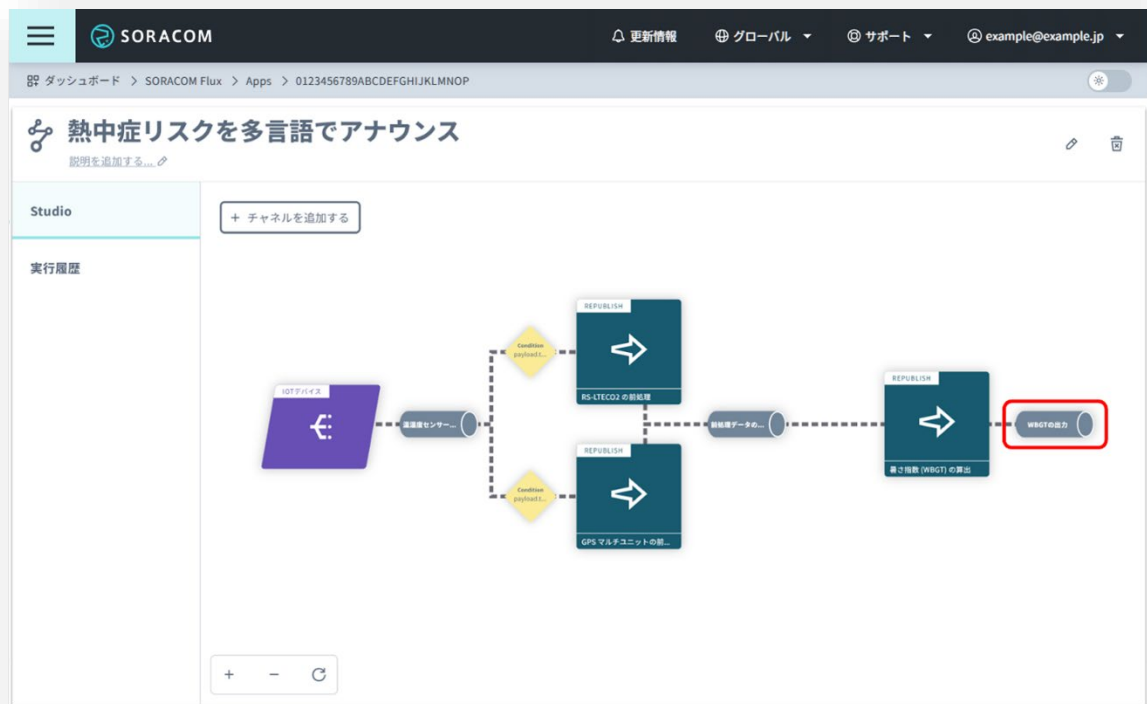
IoT 活用レシピも無料公開、温湿度を計測して”暑さ指数”を算出し  
注意喚起するシステム開発の手順を解説

株式会社ソラコム(本社:東京都港区、代表取締役社長 玉川憲)は、センサーやカメラなどの IoT デバイスのデータをインプットに、通知や検知、自動制御のための IoT アプリケーションをブラウザ上の操作で開発できる「SORACOM Flux(ソラコム フラックス)」において、センサーデータの変化率分析やロボット制御に利用できる「数学関数」に対応したことをお知らせします。

SORACOM Flux は、IoT システムの自動化を目的とした IoT アプリケーションビルダーです。センサーやカメラなどの IoT データをインプットに、通知システムや生成 AI モデルによる分析を組み合わせた検知や制御のシステムなどの IoT アプリケーションの構築が可能です。ソフトウェア開発の専門知識がなくとも、ブラウザ上の操作で IoT アプリケーションを速やかに構築できることから、現場のデジタル化の用途で様々な業界で利用が始まっています。

IoT システムにおいて、三角関数や対数関数などの数学関数は、位置情報の計測やジオフェンシング、振動の分析、音波や電波の分析、ロボットアームの角度制御などの演算で利用されます。この度、SORACOM Flux のアクションの実行条件や一部の入力欄で数学関数が使えるようになりました。三角関数や対数などを使って、より複雑な数学的処理を実行できます。

さらに、本機能を用いた IoT システム開発の手順書「SORACOM IoT レシピ/ IoT で熱中症リスクを多言語でお知らせ」を公開しました。温湿度センサーで取得した温度と湿度の数値から、SORACOM Flux で暑さ指数(WBGT)、乾燥指数、不快指数(DI)を算出し、AI で多言語での注意喚起アナウンス文を生成し、チャットで通知するシステムの開発手順を解説します。SORACOM IoT レシピでは、用途別に、必要となるデバイス、かかる費用、クラウドや通信の設定方法、ステップ毎の開発手順がわかりやすく記載されていますので、IoT アプリケーション開発のセルフラーニングにもお役立ていただけます。



SORACOM Flux は、お客さまのユースケースからのフィードバックや、最新の生成 AI サービス動向を踏まえて、引き続きアップデートしていきます。

# IoT アプリケーションビルダー SORACOM Flux について

SORACOM Flux は、デバイスから送信されたセンサーデータやカメラから送信された画像に対して、ルールを適用し、複数のデータソースや生成 AI を組み合わせて分析/判断し、その結果を IoT デバイスの制御に反映させる IoT アプリケーションをブラウザ上の操作で構築できます。

ソラコムは、IoT 活用をもっと身近にするべく、お客様、パートナー企業とともに社会やビジネスのイノベーションに貢献していきます。

## <IoT アプリケーション構築時の画面イメージ>



## ウェブサイト

<https://soracom.jp/services/flux/>

## ユーザーガイド

<https://users.soracom.io/ja-jp/docs/flux/>

## 「SORACOM IoT レシピ/ IoT で熱中症リスクを多言語でお知らせ」

<https://soracom.jp/recipes/index/32272/>

## ソラコムについて

IoT プラットフォーム SORACOM は、世界 180 以上の国と地域でつながる IoT 通信を軸に、IoT を活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業 DX から、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客様にご活用いただいています。

ソラコムコーポレートサイト <https://soracom.com>

## 本ニュースに関するお問い合わせ

株式会社ソラコム 広報

担当:田渕

pr@soracom.jp